



Infor LN 有効化構成ユーザガイド

重要事項

本書に含まれる資料（あらゆる補足情報を含む）は、Inforの機密及び専有情報に相当し、かつそれを含むものです。

添付を使用するにあたり、使用者は、当該資料（当該資料のあらゆる修正、翻訳または翻案を含む）、すべての著作権、企業秘密、及びそれに関係するすべてのその他権利、権原及び利益はInforが独占所有するものであり、使用者には、別の契約（この別契約の契約条項によって、貴社の当該資料及びすべての関連する補足情報の使用が規定されます）に基づいてInforより貴社に使用許諾されたソフトウェアに関連し、またその使用を促進することのみを目的（以下、「目的」という）として、当該資料を使用するための非独占的権利以外、使用者の閲覧に基づく権利、権原及び利益（すべての修正、翻訳または翻案を含む）は付与されるものではないことを認識し、それに同意するものとします。

更に、同封の資料を使用するにあたり、使用者は、使用者が当該資料を極秘扱いで保管しなければならないこと、そして使用者の当該資料の使用は上述の「目的」に限定されることを認識し、それに同意するものとします。Inforは、本書に含まれる内容に誤りや洩れがないよう細心の注意を払っていますが、本書に含まれる内容が完全なもので、誤植やその他の誤りがなく、使用者の個別の要望を満たすことは保証しません。したがって、Inforは、本書（あらゆる補足情報を含む）の誤りまたは不備により、またはそれに関連して生じたあらゆる個人または団体に対する、あらゆる間接的または直接的損失または損害について、その誤りまたは不備が過失、事故またはその他の理由によるものであるかどうかにかかわらず、一切の責任を負わず、かつそれを放棄するものとします。

使用者の本資料の使用は、米国輸出管理法及びその他に限定しない輸出入の適用法に準拠するものとし、使用者は、本資料及びあらゆる関係資料または補足情報を当該法律に違反して、直接的または間接的に輸出または再輸出してはならず、またこれらの資料を当該法律により禁止されるいかなる目的にも使用してはなりません。

商標確認

ここに示す文字標章及び図形標章は、Infor及び/またはその関連会社ならびに子会社の商標または登録商標、あるいはその両方です。無断複製・転載を禁ず。参照されるすべての他の社名、製品名、商標名またはサービス名は各所有者の登録商標または商標です。

発行情報

文書コード	comuefug (U8747)
リリース	10.5.1 (10.5.1)
発行日	2017 年 12 月 19 日

目次

文書情報

第1章 有効化構成のコンセプト.....	7
有効化構成.....	7
例外の設計.....	7
要件.....	10
簡単な製品コンフィギュレータ.....	12
標準原価計算.....	14
第2章 有効化構成のマスタデータ.....	15
有効化構成のマスタデータ.....	15
有効化構成目.....	15
有効化コードシリーズ.....	16
標準構成と例外.....	16
要件.....	17
交換可能の設定.....	18
単位の構成.....	19
販売価格.....	19
第3章 単位の標準原価の計算.....	21
単位の標準原価の計算.....	21
マルチレベル原価計算の出力 (ticpr2420m000).....	21
有効化コード (tcuef0102m000).....	21
第4章 販売における有効化構成.....	23
販売の単位.....	23
概要.....	23
有効化構成の標準的な使用.....	23
コンフィギュレータとしての有効化構成.....	23
有効化構成とペギング.....	25
見積.....	26
第5章 企業計画における有効化構成.....	27
企業計画の単位.....	27

単位の展開.....	27
同一構成.....	28
交換可能.....	29
ソーシング戦略による例外.....	29
品目別の例外 - 購買取引先.....	29
第6章 調達における有効化構成.....	31
調達の単位.....	31
第7章 倉庫管理における有効化構成.....	33
倉庫管理の単位.....	33
計画在庫処理の単位.....	33
在庫の単位.....	34
単位の入庫.....	35
単位の出庫.....	35
第8章 製造における有効化構成.....	37
製造の単位.....	37
マスターデータ.....	37
SFC の単位.....	37
処理を完了としてレポート.....	38
オーダを完了としてレポート.....	38
見積資材配分.....	38
完成状態ヘッダの単位.....	39
完成状態構成要素の単位.....	39
有効化構成と PCS プロジェクト.....	39
単位と PCF.....	40
設計データ管理 (EDM) の単位.....	40
APL および ASC の単位.....	41
付録A	43
有効化構成に基づいた取引先の選択.....	43
例外.....	43
品目 - 購買取引先.....	44

文書情報

この文書では、有効化構成の概要を紹介し、LN における有効化構成の設定、原価計算、使用について説明します。

本書の概要

本書には、次の章が含まれます。

- 第 1 章、有効化構成のコンセプト
有効化構成に含まれる構成要素について説明します。
- 第 2 章、有効化構成のマスタデータ
有効化構成について設定する必要があるデータについて説明します。
- 第 3 章、単位の標準原価の計算
有効化構成の標準原価計算について説明します。
- 第 4 章から第 8 章
さまざまな Infor LN パッケージにおける有効化構成の使用について説明します。

本書の使い方

本書は、オンラインヘルプトピックから作成されたものです。そのため、他のセクションへの参照は、次のように表示されます。

詳細については、「有効化構成のコンセプト」を参照してください。参照先のセクションを見つけるには、目次を参照するか、文書の最後にある索引を使用してください。

下線の付いた用語には、用語集の定義へのリンクが設定されています。本書をオンラインで表示する場合は、下線の付いた用語をクリックすると、巻末の用語集の定義が表示されます。

コメント

弊社は常に文書の見直しや改善を行っていますが、この文書に関するご意見、ご要望などありましたら、documentation@infor.com にご連絡ください。

送信の際には文書番号およびタイトルを明記してください。情報が具体的であるほど迅速な対応が可能です。

Infor へのお問い合わせ

Infor 製品に関するお問い合わせは、Infor Xtreme Support ポータル www.infor.com/inforxtreme をご利用ください。

製品リリースに関する更新情報は、この Web サイトに掲載いたします。このサイトを定期的にご確認ください。

Infor ドキュメントに関するご質問・ご意見は、documentation@infor.com までご連絡ください。また、ご意見は、documentation@infor.com までご連絡ください。

有効化構成

有効化構成を設計例外に使用したり、シンプルなコンフィギュレータ (簡単な製品コンフィギュレータ) として使用したりできます。

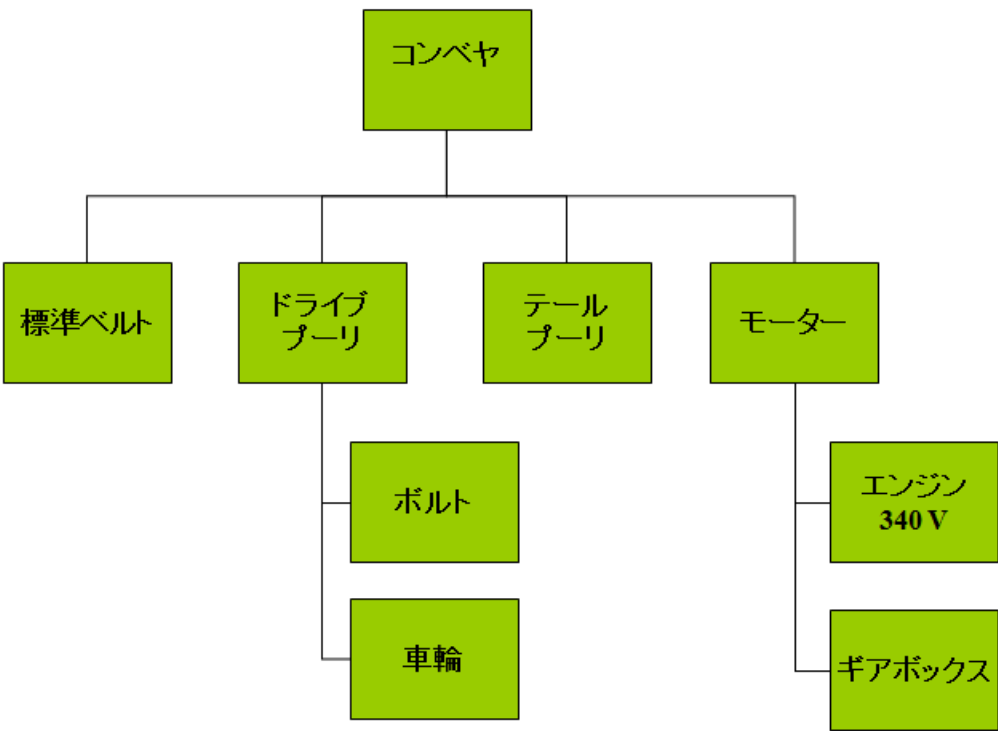
例外の設計

大部分の状況では、1つの製品に標準製品構成が1つ存在します。このコンテキストでは、構成は製品に関連するデータの全体的なセットであり、部品表、工順、工順作業などが含まれています。この標準構成を計画して、構成を変更することなく顧客に販売します。

ただし、多くの会社は製品をわずかに異なる構成で販売します。さまざまな製品すべてに、同一の品目コードが使用されています。すべての構成に別々の品目コードを定義した場合、非常に多くの品目および関連データを保管する必要があります。

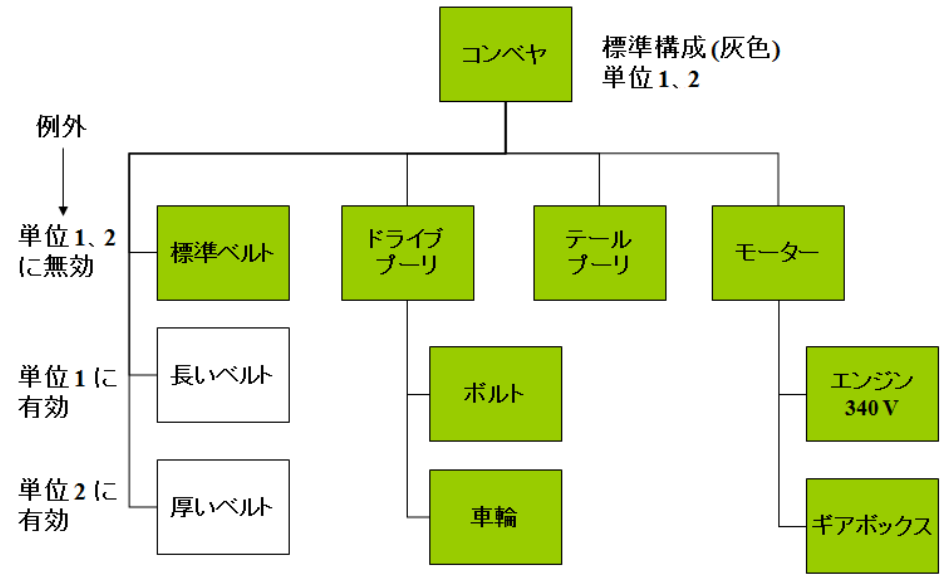
LNでは、有効化構成を使用して標準構成に関する例外を定義できるので、個別の品目を定義する必要はありません。標準構成の例外を定義するには、単位を使用します。すべての単位は、同一品目の別々の構成を表します。単位は、製品構造、工順、その他のデータの差異を示します。

次の例は、コンベヤベルトの標準製品構造を表しています。



顧客がコンベヤの標準構成を購入した場合、0 (ゼロ) の有効化コードを販売オーダーラインに入力します。ただし、一部の顧客は非常に厚みのあるベルトを必要としています。他の顧客は異なる長さを必要としています。このような例外では、LN で単位を定義します。

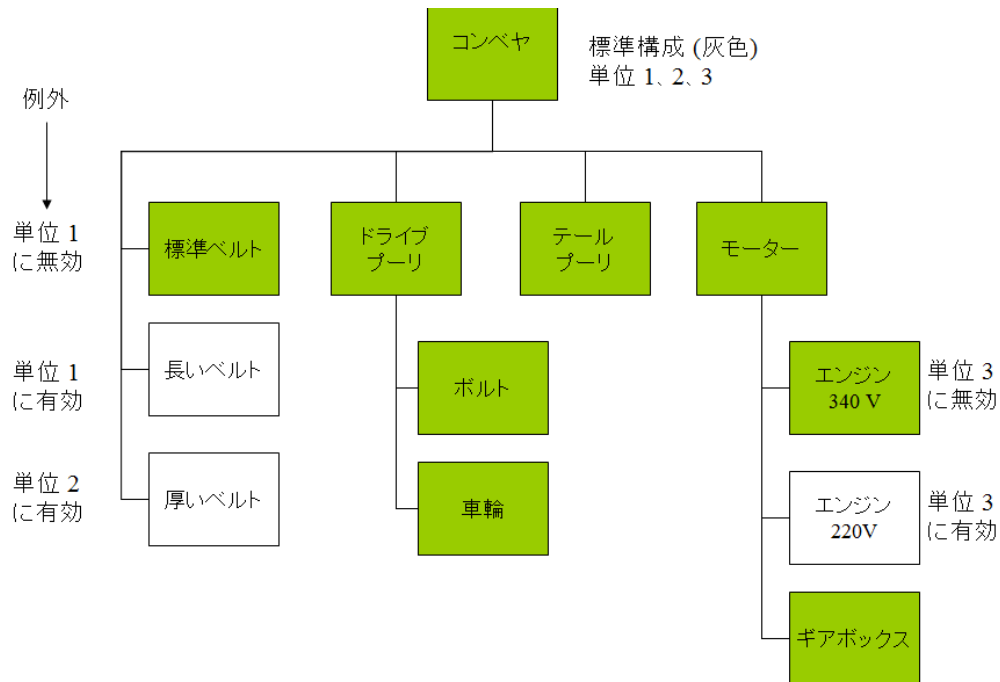
たとえば、単位 1 は、ベルトが長いコンベヤの製品構造を表しています。単位 2 は、厚みのあるベルトで構成されているコンベヤです。例外を使用して、部品表ラインで構成を指定できます。



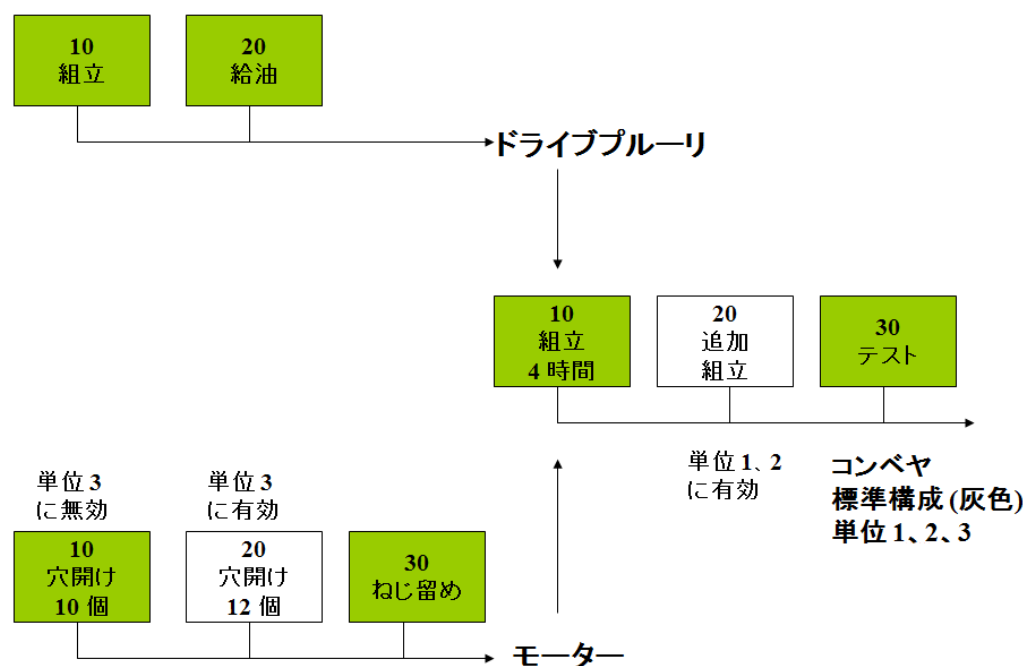
この例では、コンベヤの部品表ラインに例外がリンクされています。したがって、部品表ラインは有効化構成です。その他の有効化構成エンティティには、たとえば工順や工順作業などがあります。

例外の定義は、最上位レベルの品目に直接関連するデータのみに関連しているわけではありません。単位 1 または 2 で表されている例外は、どの有効化構成エンティティにもリンクできます。そのため、有効化構成はマルチレベルで機能します。

次の例では、単位 3 は 220V のエンジンを含む構成を指定するように定義されています。単位 3 は、部品表の下位レベルにある構成要素にリンクされています。



部品表ラインの記述内容と同様に、例外を工順、工順作業、その他のエンティティにリンクできます。次の例では、単位 1 および 2 用の追加の作業手順がコンベヤの工順に追加されています。これらの単位の 1 つに使用するモーターを製造する場合、作業手順の 1 つが別の作業手順で置き換えられます。単位 3 の場合、穴を 10 個ではなく 12 個開ける必要があります。



LN のいずれかの場所で、計画、製造、および購買を行う必要のある単位を入力できます。販売オーダーライン、製造オーダー、および購買オーダーラインで単位を指定できます。単位は、企業計画でのMRP展開中に考慮に入られます。単位の販売オーダーは、有効化構成単位品目が製品構造のより下位レベルにある場合、その単位の購買オーダーにすることができます。

要件

例外は、例外が定義されているエンティティ (部品表ラインなど) が、特定の単位について有効か有効でないかを判断するステートメントです。ただし、部品表ラインや作業手順などの有効化構成エンティティは、多くの単位で有効または無効にすることができます。そのため、複数の例外を定義する必要があります。完成品に多くの単位が存在する状況では、例外の数が膨大になる可能性があります。そのため、要件が導入されています。要件は単位をひとまとめにしたものであり、これに例外を定義できます。したがって、単位ごとに複数の例外を別々に定義するのではなく、すべての単位で構成される要件を作成して、単位の例外を1つだけ定義することができます。

要件と言われるのは、結合されているすべての単位が同じ要件に導入されているからです。

この例では、次の (顧客) 要件を定義できます。

- LB: 長いベルト
- TB: 厚いベルト
- 220: 220V エンジン

この例では、単位の例外ではなく、要件の例外を定義します。

この例の単位は、次のように要件にリンクされています。

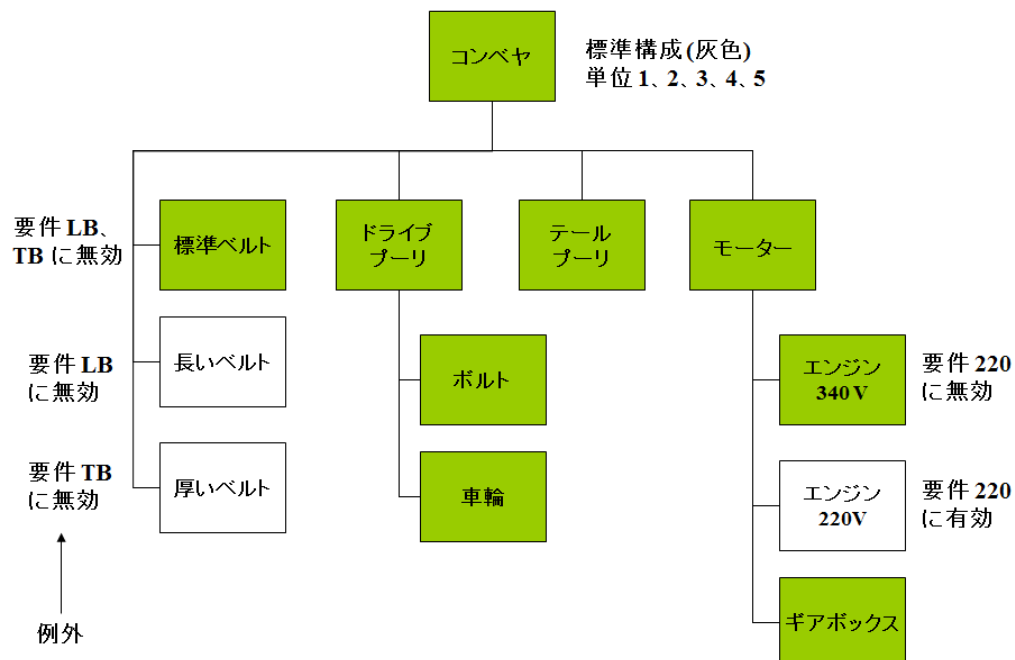
要件	単位
LB	1
TB	2
220	3

次に単位 4 を定義します。単位 4 は、要件「長いベルト」と「220V」を表しています。単位 5 は要件「厚いベルト」と「220V」を表しています。

次の表には、すべての単位がリストされています。

要件	単位
LB	1,4
TB	2,5
220	3,4,5

次の図では、要件が部品表ラインにリンクされています。



簡単な製品コンフィギュレータ

有効化構成は、非常にシンプルなコンフィギュレータとして使用できます。状況によっては、製造の PCF コンフィギュレータが大き過ぎて使用できないことがあります。一般品目、機能、オプション、および制約を導入する必要がありますが、これには多くの作業が必要です。

PCF 製品コンフィギュレータを使用する場合、構成ごとに一意の番号が生成されます。この番号は、製品バリエーションと呼ばれます。

有効化構成をコンフィギュレータとして使用するには、有効化構成パラメータ (tcuef0100s000) セッションで [需要入力時に有効化コードを生成] チェックボックスをオンにします。ここで有効化構成品目の販売オーダーラインを入力すると、新しい単位が生成されます。LN では、単位番号で構成を識別します。販売オーダーラインから、生成された単位の構成処理を開始できます。この構成処理には、品目に関連する要件の選択も含まれます。

例

前出の例で、有効化構成をコンフィギュレータとして使用するものとします。その場合、有効化構成コンベヤを販売オーダーラインに入力する必要があります。新しい有効化コードが生成されます (例: 15)。その後、単位 15 の要件を選択します。

構成の開始時には、この単位にリンクされている要件はまだありません。

品目: コンベヤ

単位 15

要件	記述
-	-
-	-

構成処理中に、単位を選択することができます。デフォルトの要件 (最も頻繁に使用される要件) のリストを取得することもできます。その後、デフォルトのリストを調整できます。

構成処理の最後に、要件が選択されます。

品目: コンベヤ

単位 15

要件	記述
LB	長いベルト
220	220 V

リンク処理の結果、単位 15 は 要件 LB および 220 に属するようになりました。

次の表は、要件にリンクされているすべての単位の概要を、前出の例も含めて示しています。

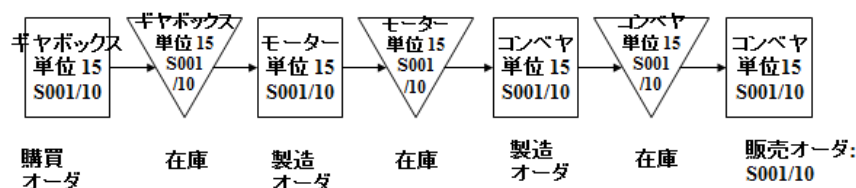
要件	単位
LB	1,4,15
TB	2,5,15
220	3,4,5,15

単位が要件にリンクされているので、この要件に適用可能なすべての例外が、生成された単位に適用可能です。その結果、正しい部品表ラインおよび処理が選択されます。

ペギング

有効化構成には、マルチレベルのペギング機能が備えられています。有効化構成品目が含まれる販売オーダーラインでは、販売オーダーラインに一意の単位番号を生成できます。単位の記述は、販売オーダー番号および販売オーダーライン位置で構成されています。MRP は、販売オーダーラインの品目の下位にあるすべてのレベルに単位を展開します。在庫内のすべてのレベルでこの単位を表示できます。製造、倉庫、購買、およびサービスの各オーダーに単位を保存できます。そのため、すべてのレベル、多くの場所で、販売オーダーにペグがあります。

次の図は、ペギングのコンセプトを示しています。



ペギングレポートを表示できます。このレポートには、特定の単位に関連する全オーダーが表示されます。

交換可能

同一品目のさまざまな単位の在庫は交換可能です。MRP で、最上位レベルの単位を、部品表構造の下位レベルに展開します。交換可能でなくても、要求した単位の在庫のみを使用することができます。前出の例では、コンベヤの下位にあるすべてのレベルで単位 15 が要求されます。ただし、品目と単位の間で交換可能であるよう指定できます。

前出の例で、品目「モーター」の品目単位は交換可能であるとします。モーターの所要日には、単位 15 は使用できません。ただし、別の単位である単位 16 を使用できます。品目「モーター」の単位は交換可能であるため、単位 15 の代わりに単位 16 を使用できます。

要求された単位が所定の場所になく、交換可能な単位で重複する在庫が存在する場合、MRP では自動的に交換可能な単位を使用します。

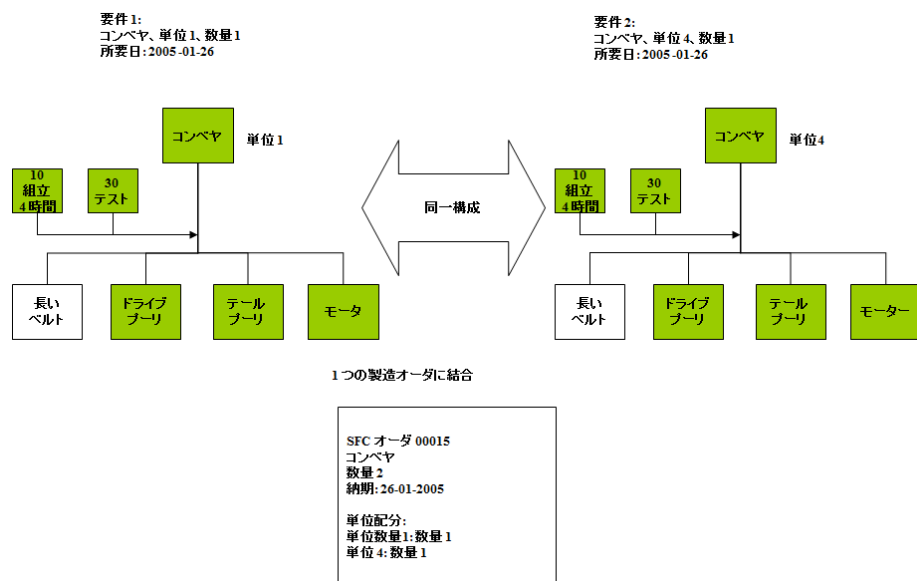
交換可能性は倉庫管理でも利用されます。要求された単位が使用できない場合に、交換可能性の設定を使用して、異なる単位を使用できるかどうかチェックされます。

同一性

製品構造の一部のレベルは、別の単位のレベルと同じです。前出の例で、コンベヤベルトの部品表および工順は、単位 1 と 4 で同じです。そのため、コンベヤの単位 1 と 4 は 1 つの製造オーダーに結合できます。たとえば、数量 2 の製造オーダーは、単位 1 の品目 1 つと単位 4 の品目 1 つとで構成できます。

MRP では展開中に単位の同一性をチェックします。品目の部品表および工順が異なる単位で同一の場合に、それらの単位に要件が存在すると、MRP ではこれらの単位を結合して、異なる単位に複数のオーダーラインが含まれるオーダーを 1 つ生成します。標準の MRP ロジックでは、たとえば、特定のオーダー間隔または最大発注量が考慮されて、オーダーが生成されます。

製造オーダーについては、すべての単位をオーダー配分に表示できます。オーダー配分は製造オーダーヘッダから開始できます。



標準原価計算

品目ごとに、単位別に標準原価を計算することができます。品目に単位が存在していれば、すぐに標準原価を計算できます。そのため、早い段階で標準原価を計算できます。有効化構成のコンセプトを製品コンフィギュレータとして使用する場合、単位の生成時に標準原価を計算することもできます。

標準原価は情報として提供されているだけで、標準原価としては使用できません。単位の標準原価は、SFC および PCS での見積原価 - 価格計算では使用されません。

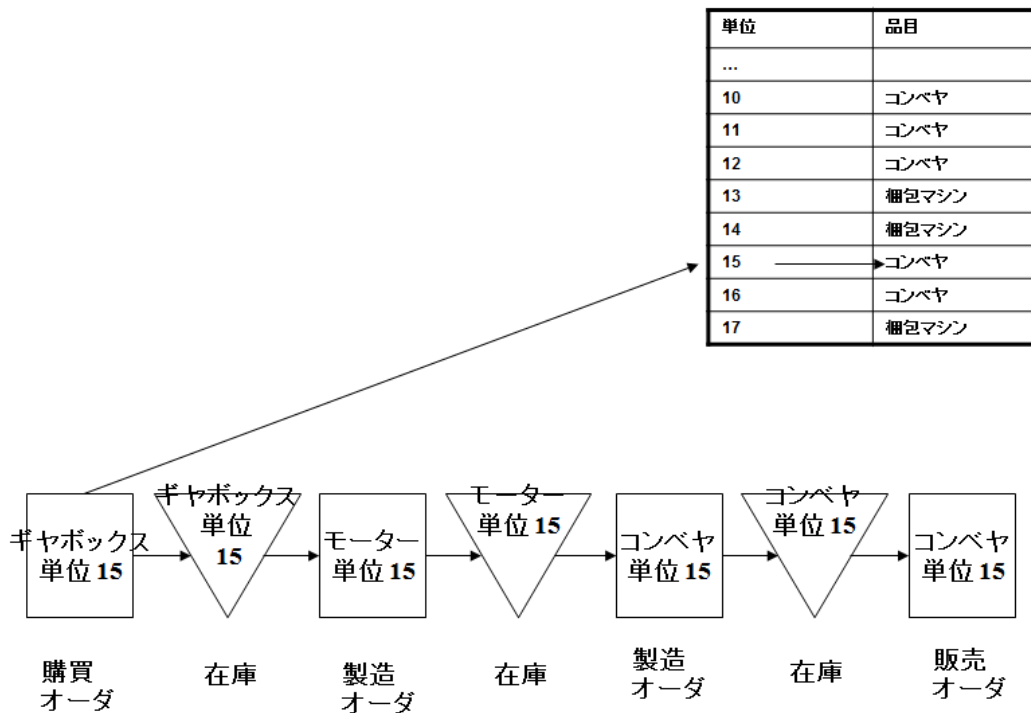
有効化構成のマスタデータ

有効化構成成品目

有効化コードは、品目との組合せとしてのみ存在しており、単独では成立しません。単位が生成されている品目を、有効化構成成品目と呼びます。通常は、有効化構成成品目はマルチレベル構造の最上レベル品目であり、これに販売オーダーが作成されます。ただし、完成品が有効化構成である必要はありません。たとえば、品目の販売オーダーまたは製造オーダーを作成する場合には、品目が有効化構成でなくても、または異なる有効化構成成品目に単位が属していなくても、有効化コードを入力できます。このようにして、特定の構成用のスペア部品または部分組立品の販売がサポートされます。

複数の有効化構成完成品が存在する場合、単位と完成品との接続を利用して、製造処理で活動がアップストリームに実行されている最上位レベルの品目を簡単に追跡できます。

コンベヤベルトが有効化構成完成品で、このコンベヤに単位 15 が定義されているとします。その状況では、下位レベルの購買オーダーおよび製造オーダーから、その特定のコンベヤまでたどることができます。次の図を参照してください。



品目を有効化構成として定義するには、品目 (tcibd0501m000) 詳細セッションの [有効化構成] タブで、[有効化構成完成品] チェックボックスをオンにします。

有効化コードシリーズ

単位は、LN によって生成される一意の番号です。これらの番号は、ユーザにとっては意味を成していません。その代わりに、意味のあるコードがユーザには必要です。したがって、単位を生成する前に、品目が発生するごとに識別コードを入力できます。このコードは、シリーズコードおよび連番で構成されます。複数の連番を同時に定義するには、定義する最初の連番および最後の連番を入力するだけです。シリーズコードと組み合わせた連番ごとに、LN で一意の単位コードが生成されます。

たとえば、AGR (農業) シリーズで 20 の連番を生成できます。この処理は、品目 - 有効化コードシリーズ (tcuef0101m000) セッションで実行できます。

単位

シリーズの最初と最後の連番を定義すると、LN でシリーズの連番ごとに単位が生成されます。品目 - 有効化コードシリーズ (tcuef0101m000) セッションを開始して、適切なメニューで [生成] をクリックします。

LN で連番ごとに単位が生成されます。

標準構成と例外

LN の多くのエンティティに関して、エンティティが標準構成に属するかどうか、またはエンティティが特定の単位にのみ有効であるかどうかを定義できます。

エンティティには、たとえば部品表ラインで、エンティティが標準構成または特定の単位のいずれに属するかを定義します。いわゆる例外はエンティティに関連しており、エンティティが特定の単位に有効かどうかを定義する場合に使用します。以下のロジックを使用して、エンティティが有効かどうか、つまり特定のエンティティについて有効または選択済かどうかを検証します。

次のステートメントの 1 つが true の場合、エンティティは単位について [有効] です。

- エンティティは標準構成に属している
- エンティティは標準構成に属していないが、指定した単位に有効である

以下の 1 つが true の場合、エンティティは単位について [有効] です。

- エンティティは標準構成に属していない
- エンティティは標準構成に属しているが、指定した単位には無効である

つまり、エンティティが標準構成に属している場合、例外によってエンティティが単位について無効であると指定されない限り、すべての単位についてエンティティは有効です。エンティティが標準構成に属していない場合、例外によってエンティティが特定の単位について有効であると指定されない限り、すべての単位についてエンティティは無効です。

たとえば、コンベヤの 2 つの部品表ライン、BELT LONG および BELT THICK は、特定の単位に属すると定義できます。これらの部品表ラインは、標準構成には属していません。コンベヤのその他の部品表ラインは、標準構成に属しています。

例外によって、エンティティが特定の単位について有効か無効かを指定できます。例外を定義するには、例外 (tcuef0105m000) セッションを使用します。これは、有効化構成エンティティが定義されているセッション、たとえば部品表 (tibom1110m000) セッションおよび工順作業 (tirou1102m000) セッションから開始できます。

例では、コンベヤの構成要素 BELT LONG は単位 9584 で有効です。これは部品表ラインの例外で指定できます。例外 (tcuef0105m000) セッションを開始するには、部品表 (tibom1110m000) セッションの [例外] をクリックします。

例外 (tcuef0105m000) セッションには、すでに部品表ラインデータが含まれています。どの単位で部品表ラインが有効または無効であるかのみを指定します。例では、部品表が単位 9584 で有効であると指定します。

有効化構成エンティティの例外を定義した後、部品表 (tibom1110m000) セッションで [標準構成] チェックボックスをオフにすると、エンティティ (この場合は部品表ライン) を標準構成から除外できます。

エンティティに例外がない場合は、エンティティが標準構成に属するかどうかを指定することはできません。リンクされている例外がない場合、[標準構成] チェックボックスをオフにすると、エンティティは標準構成でも有効化コードでも有効ではありません。

たとえば、BELT STANDARD が標準構成の一部であるが、品目が単位 9584 および 9585 について無効であることが必要な場合、これを例外によって指定できます。

要件

エンティティの有効性を要件レベルで定義することができます。例外では、エンティティが有効または無効である要件を定義できます。

要件は要件 (tcuef0106m000) セッションで定義します。

要件ごとに、関連する有効化コードを要件 - 有効化コード (tcuef0107m000) セッションで定義します。

有効化コードを要件にリンクすると、複数の有効化コードの例外を同時に定義する場合に便利です。たとえば、品目コンベヤの部品表で例外が必要な場合に、特定の要件に例外を定義すると、その後、要件にリンクされているすべての有効化コードで例外が有効になります。このように、有効化コードごとに別々に例外を定義する必要はありません。

例では、コンベヤの部品表構成要素である長いベルトは、要件LBで有効です。これを例外に定義すると、部品表ラインは自動的に単位 9584 および 9587 について有効になります。

1つの例外で要件と単位の両方を参照することはできません。例外は要件レベルまたは単位レベルで定義できます。

要件のグループ化

要件詳細 (tcuef0108m000) セッションで、要件を特定のエンティティまたはエンティティの組合せにリンクして、要件をグループ化することができます。次のエンティティを要件のグループ化に使用できます。

- 販売先取引先
- 出荷先国
- 出荷元倉庫
- 完成品

販売オーダーの入力中に、グループ化された要件を使用できます。特定の販売先取引先、出荷先国、出荷元倉庫、完成品、またはエンティティの組合せに関して販売オーダーを入力する場合、要件詳細 (tcuef0108m000) セッションから有効化コード (tcuef0102m000) セッションを開始して、適用可能な要件を検索できます。ただし、必要に応じて、引き続き未定義の要件を要件詳細 (tcuef0108m000) セッションで選択することができます。

デフォルトの要件

要件詳細 (tcuef0108m000) セッションで、要件をデフォルトとして定義することもできます。販売オーダーを入力し、要件の複数のセットを販売オーダーに適用すると、デフォルトの要件のみが取得されます。

たとえば、特定の完成品の要件の番号を定義し、要件の一部をデフォルトにします。特定の販売先取引先のデフォルトの要件の一部も定義します。この特定の完成品および販売先取引先について販売オーダーを作成すると、デフォルトの要件のみが取得されます。

交換可能の設定

次のようなさまざまなレベルで交換可能を設定できます。

- 会社レベル
- 品目レベル
- シリーズレベル

会社レベル

有効化構成パラメータ (tcuef0100s000) で [すべての有効化コードを交換可能] チェックボックスをオンにすると、特定の会社のすべての単位が交換可能になります。この設定は、下位レベルのその他すべての交換可能設定より優先されます。

品目レベル

品目 (tcibd0501m000) 詳細セッションの [有効化コード交換可能] チェックボックスがオンの場合、特定品目のすべての単位が交換可能になります。この設定は、シリーズレベルの交換可能設定より優先されます。

シリーズレベル

交換可能を定義できる最も詳細なレベルが、シリーズレベルです。シリーズレベルでは、以下のチェックボックスをオンにできます。

- 品目 - 有効化コードシリーズ (tcuef0101m000) セッションで [シリーズ内で交換可能] チェックボックスをオンにすると、[単位シリーズ] フィールドで指定されているシリーズのすべての単位が交換可能になります。
- 品目 - 有効化コードシリーズ (tcuef0101m000) セッションで [他の交換可能シリーズ内で交換可能] チェックボックスをオンにすると、[単位シリーズ] フィールドで指定されているシリーズの単位が、[他の交換可能シリーズ内で交換可能] チェックボックスがオンになっている同じ品目のその他のシリーズの単位と交換可能になります。
- 品目 - 有効化コードシリーズ (tcuef0101m000) セッションで [標準構成と交換可能 (逆も可能)] チェックボックスをオンにすると、[単位シリーズ] フィールドで指定されているシリーズの単位が、標準構成と交換可能になります。技術的には、標準構成は単位 0 (ゼロ) です。

品目 - 有効化コードシリーズ (tcuef0101m000) セッションの [すべての有効化コードを交換可能] チェックボックスおよび [完成品を交換可能] チェックボックスによって、会社レベルまたは品目レベルで行った設定が表示されます。これらのチェックボックスの 1 つをオンにすると、もう 1 つのチェックボックスをオンにすることはできません。

単位の構成

単位は有効化コード (tcuef0102m000) セッションで構成できます。このセッションでは、次の処理を実行できます。

- 要件のリンク
- 単位別標準原価の計算
- 販売特徴のリンク
- プロセス変数の定義

通常は、販売オーダラインで単位を構成します。ただし、すべての単位は LN で構成できます。

販売価格

更新価格は要件ごとに指定できます。有効化コードについて選択した要件に基づいて、更新価格が販売価格に追加されると、有効化コードごとに異なる販売価格となる可能性があります。販売オーダラインに表示される最終的な販売価格には、要件の更新価格が含まれています。

単位の更新価格は、要件 (tcuef0106m000) セッションで定義します。

単位の標準原価の計算

有効化コードの標準原価を、次のセッションで計算できます。

- マルチレベル原価計算の出力 (ticpr2420m000)
- 有効化コード (tcuef0102m000) ([価格] タブ)

マルチレベル原価計算の出力 (ticpr2420m000)

マルチレベル原価計算の出力 (ticpr2420m000) セッションを使用して、標準原価を単位別に計算および出力できます。LN では標準原価構造が出力されますが、保存はされません。

有効化コード (tcuef0102m000)

標準原価は、有効化コード (tcuef0102m000) セッションの [価格] タブで計算および表示することもできます。単位の見積標準原価を計算するには、[見積原価の計算] をクリックします。マルチレベルの計算は出力されず、標準原価はその他のセッションでは使用されません。標準原価は販売利益の管理に使用できます。

SFC では見積原価を単位別に計算しません。

販売の単位

概要

販売オーダーラインで、有効化コードを使用できます。通常は事前定義されている単位を入力しますが、その場合、製品に特定の発生が入力されます。

販売オーダーの入力時に単位を生成することもできます。その場合、有効化構成をコンフィギュレータとして使用し、ペギングに使用します。

有効化構成の標準的な使用

販売で有効化構成を標準的な方法で使用するには、有効化構成パラメータ (tcuef0100s000) セッションの [需要入力時に有効化コードを生成] チェックボックスをオフにします。

販売オーダーライン (tdsls4101m000) セッションでは、販売済品目の有効化コードを入力できます。必要に応じて、[有効化コード] フィールドから事前定義されている単位にズームできます。

コンフィギュレータとしての有効化構成

有効化構成 (UEF) の機能はコンフィギュレータとして使用できます。このシナリオでは、既存または新しい単位を構成します。単位の所要量を変更するには、販売オーダーライン (tdsls4101m000) セッションで [所要量] をクリックします。

販売オーダーラインで既存の単位を選択しない場合は、[所要量] をクリックすると新しい単位が生成されます。有効化コードを生成するかどうか確認するメッセージが表示されます。[Yes] をクリックすると、新しい単位番号が生成され、有効化コード (tcuef0102m000) セッションで有効化コードの構成が開始されます。このセッションは、後で販売オーダーラインの [所要量] をクリックして開始することもできます。

有効化構成成品目を販売オーダーラインに入力した直後に、有効化構成完成品の新しい単位が自動的に生成されるようにもできます。その場合は、有効化構成パラメータ (tcuef0100s000) セッションで [需要入力時に有効化コードを生成] チェックボックスをオンにします。作成された有効化コードの記述は、販売オーダーコードおよび販売オーダーライン番号で構成されています。

要件詳細 (tcuef0108m000) セッションで完成品、販売先取引先、出荷先国、出荷元倉庫のデフォルトの要件を定義済の場合は、これらの要件が取得されます。

有効化コード (tcuef0502m000) セッションで、販売オーダーラインに入力または生成される単位を表示できます。

有効化コード番号に使用されるシリーズは、有効化構成パラメータ (tcuef0100s000) セッションから取得されます。

有効化コード (tcuef0102m000) セッションから次の処理を実行できます。

- 要件のリンク
- 単位別標準原価の計算
- 販売特徴の定義
- プロセス変数の定義

これらの処理については、以下のセクションで説明しています。

要件のリンク

有効化構成 (UEF) で構成するには、単位を要件に割り当てます。そのためには、有効化コード (tcuef0102m000) セッションで要件を追加します。このセッションは販売オーダーラインから開始できます。

追加の要件を有効化コードに割り当てるには、タブにある [新規] をクリックします。要件を削除することもできます。事前定義済の要件のデフォルトセットを再度インポートするには、[要件 - 有効化コード] タブの適切なメニューで [要件のインポート] をクリックします。

要件のデフォルトセットは、要件詳細 (tcuef0108m000) セッションで定義できます。

排他性インジケータ

構成処理中に、[排他性インジケータ] を使用できます。排他性インジケータは、要件が、同じ品目で選択されるその他の要件と矛盾しないようにします。同じ排他性インジケータが含まれる 1 つの単位で、要件を複数選択することはできません。例では、長いベルトと厚いベルトが同時に選択されないように避ける必要があります。そのためには、要件 (tcuef0106m000) セッションで、両方の要件に同じ排他性インジケータ (BELT) を定義します。すでに要件 LB (長いベルト) を選択していながら要件 TB (厚いベルト) を選択しようとする、メッセージが表示されます。

単位別標準原価の計算

単位の見積原価を計算するには、有効化コード (tcuef0102m000) セッションのヘッダにある [価格] タブを選択し、[見積原価の計算] をクリックします。このセッションに原価が表示され、有効化コードの原価が保存されます。販売価格も表示され、このセッションが利益管理で重要となります。

プロセス変数

プロセス変数は、機械費や工具、または作業手順や作業手順ステップの実行に関連する処理品質に関連する設定または入力値です。プロセス変数の例としては、切断の深さ、切断速度などがあります。プロセス変数には、ターゲット値、管理上限、管理下限を定義できます。このタイプの情報は、単位別に異なります。

有効化コード (tcuef0102m000) セッションの下部にある [有効化コード - プロセス変数] タブで、有効化コードのプロセス変数を定義できます。[新規] をクリックして有効化コード - プロセス変数 (tirou1114m000) セッションを開始し、ここで有効化コードのプロセス変数を入力できます。

品目別デフォルトプロセス変数 (tirou1115m000) セッションで品目レベルでデフォルトのプロセス変数を定義する場合、有効化コード - プロセス変数 (tirou1114m000) セッションの適切なメニューで [プロセス変数のインポート] をクリックして、特定の有効化コードのプロセス変数をインポートできます。

Infor LN 製造では、特定の作業手順または作業手順ステップ番号のプロセス変数を定義することもできます。この情報は製造オーダーの一部です。有効化コード - プロセス変数 (tirou1114m000) セッションで、同じプロセス変数の作業手順に定義されている値とは異なるプロセス変数の値を定義する場合、製造オーダーでは、有効化コード - プロセス変数 (tirou1114m000) セッションで定義されている値が使用されます。この値は、作業手順に定義済みのプロセス変数よりも優先されます。

販売特徴

有効化コード (tcuef0102m000) セッションのヘッダにある [販売特徴] タブで、有効化コードの以下の販売特徴を表示およびメンテナンスできます。

- 販売先取引先
- 出荷先国
- 出荷元倉庫

販売オーダーラインで新しい一意の単位番号を生成すると、自動的に [販売特徴] タブに販売特徴が表示されます。販売特徴は販売オーダーラインから取得されます。販売特徴と有効化コードがリンクされているので、LN 内のどの場所でも有効化コードから販売特徴を表示できます。

販売オーダーラインで事前定義済みの有効化コードを選択し、販売オーダーラインから要件 - 有効化コード (tcuef0107m000) セッションを開始した場合、[販売特徴] タブで販売特徴を選択できます。[要件のインポート] をクリックすると、販売特徴が販売オーダーラインから取得されます。

[販売特徴] タブで [更新価格の計算] をクリックして、有効化コードの更新価格合計を計算できます。

構成の凍結

構成を作成した後、構成を凍結することができます。要件 - 有効化コード (tcuef0107m000) セッションでは、要件を追加または削除することはできなくなっています。構成を凍結するには、有効化コード (tcuef0102m000) セッションの [有効化コード] タブで、[構成処理可能] チェックボックスをオンにします。

有効化構成とペギング

販売オーダーに特定の品目をペギングする手段として、有効化コードを使用できます。

有効化構成パラメータ (tcuef0100s000) セッションで [需要入力時に有効化コードを生成] チェックボックスをオンにすると、有効化構成をペギングに使用できます。

販売オーダーラインの作成時には、自動的に新しい単位が生成されます。すべての販売オーダーに異なる単位があることに注意してください。

有効化構成を使用して、ペギングシナリオをコンフィギュレータ機能と結合することができます。ペギング機能を使用する場合、引き続き販売オーダーライン (tdsls4101m000) セッションで [所要量] をクリックできます。

見積

見積で、販売オーダーの場合と同じように有効化コードを使用できます。

企業計画の単位

単位の展開

企業計画のオーダー計画では、マルチレベルの製品構造で有効化コードを展開します。展開中に、企業計画では、工順レベルおよび部品表ラインレベルで定義されている例外を考慮します。

LN で、製品構造の下位レベルに単位情報が通知されます。最上位レベル品目の単位への需要によって、特定単位の供給が生成されます。この供給によって、構造内で 1 つ下のレベルの単位への需要が作成されます。

ただし、構造内のすべてのレベルおよび品目に単位情報を展開する必要はありません。多くの品目では、どの最上位レベルの単位が需要を生成したかを知る必要はありません。品目 (tcibd0501m000) 詳細セッションで [有効化構成供給] チェックボックスを使用して、品目の供給オーダー (計画購買および製造オーダー、物流オーダー) に単位情報を通知するかどうかを指定します。

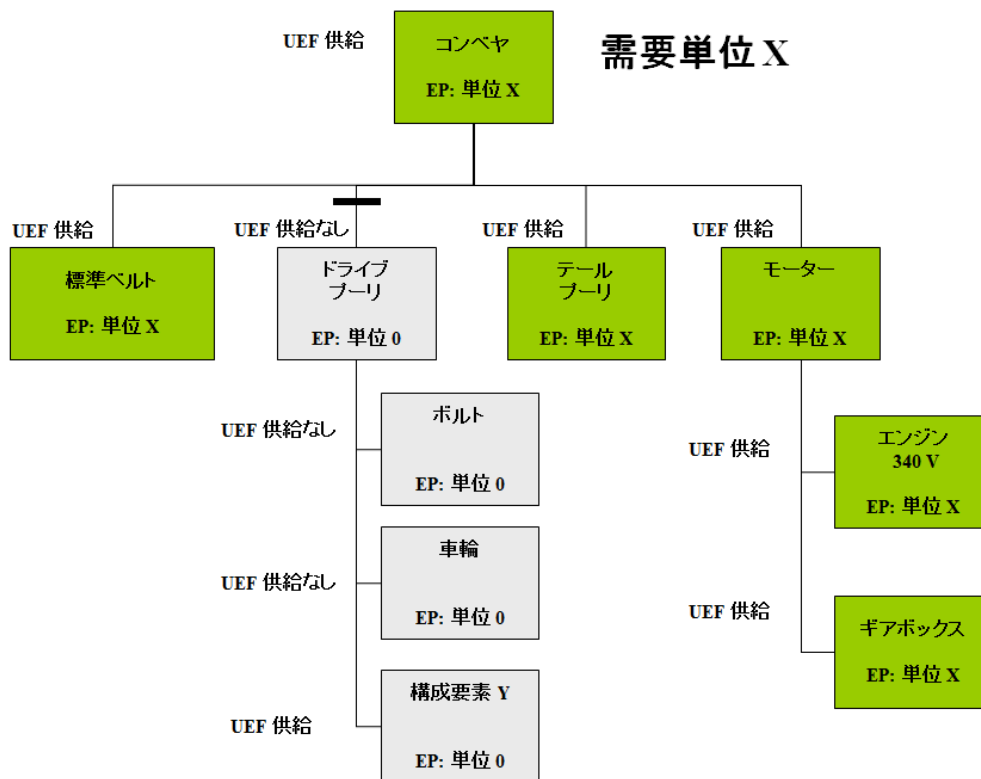
[有効化構成供給] チェックボックスをオフにした場合、品目の供給オーダーに単位情報は使用されません。これによって、単位情報が関係しない品目オーダー計画に、複数の供給ラインが生成されないようにします。

[有効化構成供給] チェックボックスの設定も、品目 (tcibd0501m000) セッションの [ロット管理] チェックボックスに応じて決まります。詳細は、次の情報を参照してください: 倉庫管理の単位 (ページ 33)

例では、有効化構成供給のない製造品目は駆動例では、有効化構成供給のない製造品目はプーリーです。その他の製造品目には有効化構成供給があります。

次の図は、企業計画で単位を展開する方法を示しています。この図では、単位 X への需要があります。どのレベルでも、単位を含む計画オーダーのある構造内の品目が示されています。駆動プーリーには有効化構成供給がないので、駆動プーリーの計画オーダーには単位 X が含まれていません。単位 X の需要はあるものの、特定単位の供給は生成されていません。その代わりに、標準構成を表す単位 0 (ゼロ) が使用されます。駆動プーリーの供給は単位 0 向けであるため、ボルトへの需要も単位 0 向けとなります。

駆動プーリーの構成要素に関して [有効化構成供給] チェックボックスをオンにした場合、構成要素への需要は単位 0 (ゼロ) のままになります。最上位レベルの単位の展開は、駆動プーリーで終了します。



2つの販売オーダーを入力した場合には、コンベヤベルトの品目オーダー計画にある需要ラインに、単位番号が表示されます。

コンベヤに関してトップダウン計画が実行されます。すべての需要ラインで、別々の計画製造オーダーラインが単位ごとに生成されます。2つの計画製造オーダーの納期が同じであっても、オーダーの有効化コードが異なるため、オーダーが結合されることはありません。

モーターの品目オーダー計画レベルで、有効化構成供給が再生成されます。

計画オーダー - 在庫移動 (cprp0511m000) セッションに、計画製造オーダーの有効化コードの計画在庫移動が表示されます。

駆動プーリーに関して、品目 (tcibd0501m000) セッションの [有効化構成供給] チェックボックスはオフです。そのため、品目オーダー計画では、有効化構成需要への有効化構成供給は生成されません。このセッションでは、標準構成である単位 0 に関して供給 2 が表示されます。親品目であるコンベヤの供給は有効化構成であるため、需要も有効化構成となります。

同一構成

計画システムでは、複数の単位で構成が同じかどうかをチェックします。特定品目の有効化コードの構成が異なる場合、製造オーダーが別々に作成されます。部品表および工順が同じ場合は、構成も同じと見なされます。構成が同じ場合、その他の計画ルール (オーダー間隔など) で許可されていれば、単位を 1 つの製造オーダーに結合できます。結合されたオーダーは、複数のラインで構成されます。

たとえば、コンベヤのさまざまな単位のラインを含む販売オーダーを 2 つ作成し、これらの単位の内の 2 つで構成が同じであるとして、計画オーダーを生成した場合、コンベヤの品目オーダー計画に含まれる計画製造オーダーには、2 つの単位にラインが別々にあります。

交換可能

別の単位と交換可能な単位への需要があるとしします。要求された単位の在庫はないが、その他の単位の在庫がある場合、計画システムでは、要求された単位の供給を作成する代わりに、その他の単位の在庫を消費します。

ソーシング戦略による例外

ソーシング戦略を単位別または要件別に定義するには、例外 (tcuef0105m000) セッション (ソーシング戦略 (cprpd7110m000) セッションの適切なメニューから開始できます) で例外を定義できます。たとえば、単位 10 の場合、モーターへの需要を購入する必要があります。単位 11 への需要を製造する必要があります。たとえば、特定単位の供給の 75 パーセントを製造し、単位の 25 パーセントを購入するよう定義することもできます。

品目別の例外 - 購買取引先

企業計画では、品目 - 購買取引先 (tdipu0110m000) セッションで定義されている例外を使用します。単位別または要件別に発注先を定義するには、品目 - 発注先の組合せごとに例外を定義できます。たとえば、コンベヤのギアボックスの購買オーダーを作成した場合に、発注先 A が単位 20 を供給します。購買オーダーは単位 21 に関係しており、発注先 B がオーダーを供給します。

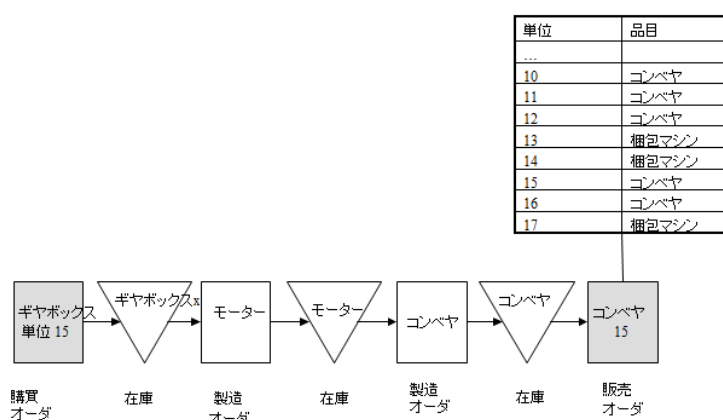
第6章 調達における有効化構成

6

調達の単位

購買オーダーラインで単位を指定できます。購買オーダーラインの品目はどの完成品にも使用可能で、すべての完成品も単位を含められるので、購買オーダーラインにはどの単位でも入力できます。購買オーダーラインの品目は、有効化構成完成品、つまり有効化コード (tcuef0502m000) セッションで定義されている単位用の品目である必要がないことに注意してください。

次の図では、コンベヤに単位 15 が定義されています。ギアボックスの購買オーダーラインで単位 15 を定義できますが、単位 15 は別の品目に属しています。



企業計画では、購買オーダーに関する単位情報も提供できます。品目 (tcibd0501m000) セッションで [有効化構成供給] チェックボックスがオンになっている場合は、企業計画の計画オーダーに単位情報が含まれています。この単位情報は調達に転送されます。

例

企業計画で、ギアボックスの品目オーダー計画があります (モーターの需要に基づきます)。2つの異なる単位用に、計画購買オーダーが 1 つあります。

オーダー計画を転送すると、購買オーダーおよび購買オーダーラインが生成されます。このラインには有効化コードが含まれています。

単位情報が関係しない場合は、品目 (tcibd0501m000) セッションで [有効化構成供給] チェックボックスをオフにすることができます。計画および購買の両方にラインが 1 つだけが作成されます。

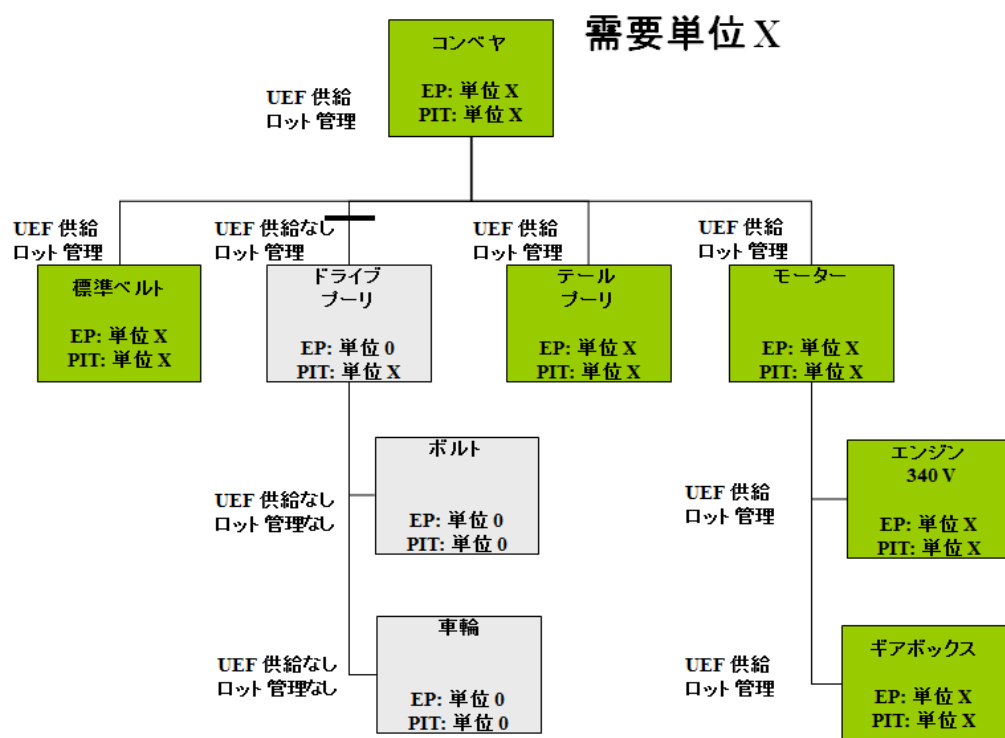
倉庫管理の単位

在庫での品目の有効化コードは、品目が使用される有効化構成 (完成) 品目を示します。たとえば、品目の単位が 15 の場合、品目は有効化コード 15 を含む品目または完成品の構成として使用されます。ロット番号は単位情報の保管に使用します。在庫はロットレベルで保管され、ロットには単位が記録されます。その結果、品目がロット管理である場合、在庫内の有効化コードしか使用できません。品目がロット管理ではない場合は、特定の有効化コードへの需要があっても、品目は単位 0 (ゼロ) で保管されます。

ロット管理ではない品目の場合、Infor LN 企業計画では、計画供給における単位情報を必要としません。これらの品目が在庫に保管されると、その単位情報は失われます。ロット管理ではない品目に計画供給されないようにするには、品目 (tcibd0501m000) セッションで [ロット管理] チェックボックスもオンになっている場合は、[有効化構成供給] チェックボックスをオンにするだけです。

計画在庫処理の単位

Infor LN 企業計画で生成される計画オーダーは、製造オーダーおよび購買オーダーに転送されます。単位情報も転送されます。計画在庫処理で、以下のようにオーダーの単位を表示できます。



駆動プーリーの計画在庫処理 (PIT) での需要には、単位情報が含まれています。ロット管理品目の特定単位用の要件がある場合、PIT の対応するラインに単位が保管されます。コンベヤの計画製造オーダが製造オーダに転送される場合に、単位は見積資材を指定します。その結果、駆動プーリーの要件には単位情報が含まれており、ロット管理されている品目の対応する PIT ラインに記録されます。PIT での供給は、駆動プーリーの製造オーダに基づきます。駆動プーリーについて [有効化構成供給] チェックボックスがオフになっているので、単位は製造オーダを指定しません。対応する PIT ラインには単位情報は含まれていません。

その結果、品目 (tcibd0501m000) 詳細セッションで [有効化構成完成品] チェックボックスがオフになっているロット管理品目には、単位情報を含む PIT の需要ラインがありますが、一方で PIT の供給ラインは単位別ではありません。

これが機能するのは、需要ラインの単位が供給ラインの単位と交換可能な場合だけです (単位 0 (ゼロ))。したがって、品目 (tcibd0501m000) 詳細セッションで [有効化構成供給] チェックボックスがオフの場合、[有効化コード交換可能] チェックボックスはオンになります。

在庫の単位

品目を在庫に保管する場合、品目または完成品の構成の、品目を使用したい有効化コードをリンクできます。その結果、どの単位に在庫を使用する必要があるかを確認できます。例では、品目「ベルト標準」の在庫を単位レベルで表示できます。

有効化コードをリンクできる対象は、それ自体は有効化構成ではない品目であることに注意してください。例では、在庫のベルト標準にリンクされている単位は、コンベヤ、つまり有効化構成完成品を指しています。ベルト自体は、単位が定義されている有効化構成品目ではありません。

ロット番号を使用して単位情報を保管します。在庫はロットレベルで保管され、ロットには単位番号が記録されます。このように、在庫を単位レベルで表示することができます。その結果、品

目がロット管理である場合、在庫は単位レベルでしか保管できません。品目がロット管理ではない場合、特定単位に関する需要であっても、品目は単位 0 (ゼロ) で保管されます。

例では、駆動プーリー、ボルト、および車輪はロット管理ではありません。そのため、これらの品目に特定の単位は在庫に記録されません。

コンベヤの製造オーダーによって、駆動プーリーの特定単位が発行されます。品目は在庫からは供給されないため、単位 0 (ゼロ) のみが供給されます。LN で品目がロット管理かどうかをチェックされます。ロット管理である場合は、倉庫管理での駆動プーリーの出庫ラインに単位 0 (ゼロ) が含まれています。

単位の入庫

品目がロット管理でない場合、品目を単位レベルで入庫できます。入庫中に単位が入力されます。ロット管理されていない品目の単位を入力することはできません。これは、このような品目の在庫には単位を含めることができないからです。

例では、購買オーダー WG2000003 を発行します。このオーダーの入庫ラインには、単位情報が含まれています。購買オーダーを発行すると、購買オーダーによってオーダーされたベルト標準を入庫できます。

入庫の [入庫ライン] タブに、単位が表示されます。入庫ラインの詳細を表示するには、入庫 (whinh3512m000) セッションを開始して、入庫ラインをダブルクリックします。

[品目、倉庫、保管場所] タブでロット番号を入力します。ロット番号を生成するには、[ロットの生成] をクリックします。

その他の購買ラインも同じように入庫されます。

両方のラインが入庫すると、在庫の単位情報を表示できます。

単位の出庫

[出庫手順] を有効化コードレベルで実行することもできます。

製造オーダーまたは別のオーダータイプ (販売オーダーなど) で単位を要求できます。単位が要求されていない場合、単位 0 (ゼロ) の出庫が実行されます。単位を要求したが、関連品目がロット管理でない場合、単位情報は出庫ラインに保管されません。これは、在庫には単位が保管されていないからです。品目がロット管理である場合、出庫手順は特定の単位にしか実行できません。

例では、単位 9595 および 9596 の製造オーダーが作成されています。単位にはロット管理されている構成要素の出庫ラインが入力されています。ロット管理されていない構成要素の出庫ラインには、単位は入力されません。

ベルト標準、駆動プーリー、およびモーターはロット管理されています。したがって、PIT の供給ラインには単位情報が含まれています。その結果、単位情報が出庫ラインにも保管されます。単位ごとに在庫ラインが別々に作成されます。テールプーリーはロット管理されていないため、単位によってこの品目の出庫が指定されることはありません。したがって、この品目には数量 2 のラインが 1 つだけ作成されます。ベルト標準の出庫ラインには単位が含まれています。テールプーリーの出庫ラインには特定の単位は含まれていません。単位 0 (ゼロ) は「単位なし」を意味します。

ベルト標準の出庫勧告を発行した場合、出庫勧告には単位が含まれています。

残りの出庫手順では、単位をマニュアルで入力する必要はありません。

製造の単位

マスターデータ

Infor LN 製造で、次のセッションの例外を定義できます。

- 設計部品表 (tiedm1110m000)
- 部品表 (tibom1110m000)
- 品目 - 工順 (tirou1101m000)
- 工順作業 (tirou1102m000)
- 作業割当 (tiapl1510m000)
- 一般部品表 (tiapl2510m000)
- 組立部品表と作業 (tiapl2520m000)

SFC の単位

さまざまな単位で品目の部品表および工順が同じである場合、単位を 1 つの製造オーダーに結合することができます。例外の定義のために、有効化コードで工順または部品表が異なる場合、これらの単位を 1 つの製造オーダーに結合することはできません。オーダー計画 (Infor LN 企業計画内) では、可能であれば単位が結合されます。

製造オーダーの単位は、オーダー配分に保管できます。バックグラウンドでは、製造オーダーのすべての活動が単位レベルで実行されます。オーダーレベルで使用可能で単位のない品目のデータは、有効化コードのある品目でも使用できます。製造オーダー内訳 (tisfc0105m000) セッションを使用して、単位に関する情報を取得できます。このセッションには次のような単位が表示されます。

- オーダー済
- 最終作業手順で完了としてレポート済
- 倉庫に納入済
- 不合格
- バックフラッシュが必要
- バックフラッシュ済

さらに、製造オーダー内訳 (tisfc0105m000) セッションには、単位別で、オーダー品目の番号が発行時に表示されます。このセッションには、品目が倉庫に納入されるときに、単位に割り当てられ

るロットコードも表示されます。同じ単位のさまざまな品目が複数のロットに割り当てられた場合は、最後のロットが表示されます。

次の状況では、オーダ配分を追加または変更できます。

- 製造オーダの状況が[作成済]の場合、マニュアルで作成されたオーダに特に関連する単位配分をマニュアルで指定できます。
- オーダ数量が変更された場合、SFC 製造オーダがすでに発行済であっても、製造オーダ (tisfc0101m100) セッションでオーダ数量を変更できます。その場合、変更された数量は、製造オーダ内訳 (tisfc0105m000) セッションで既存の単位配分にデフォルトで分配されます。オーダ数量を変更するには、適切なメニューで[オーダ数量の変更]をクリックします。ただし、すべての単位の合計オーダ数量は、製造オーダのオーダ数量と同じである必要があります。たとえば、10 個のオーダ数量があり、単位 1 に 5 個、単位 2 に 5 個の場合、オーダ数量を 14 個に変更できます。LN では、オーダ配分を変更して単位 1 に 7 個、単位 2 に 7 個にします。[オーダ数量の変更] オプションをクリックすると、オーダ配分に関して [オーダ数量] フィールドを編集できます。たとえば、単位 1 に 6 個、単位 2 に 8 個とすることができます。

処理を完了としてレポート

製造オーダが単位で構成されている場合、処理は単位別に完了としてレポートされる必要があります。入力した単位は、オーダ配分内にあります。

作業の完了レポート (tisfc0130m000) セッションに入力したデータに基づいて、オーダ配分の数量が更新されます。ただし、オーダ配分には作業レベルの情報は含まれていません。そのため、作業の完了レポート (tisfc0130m000) セッションで活動が実行されるたびに、オーダ配分の更新が行われるわけではありません。

最後の作業が完了した時点でのみ、製造が完了します。最後の作業を完了すると、オーダ配分の数量も更新されます。ただし、最初の作業で品目が不合格になった場合、この品目はその後の製造で不合格になります。そのため、作業ごとに不合格になると、オーダ配分で不合格数量が更新されます。

最後の作業を完了すると、最終製品を在庫に転送できます。その場合、それに応じてオーダ配分への納入数量が更新されます。

オーダを完了としてレポート

製造オーダに単位配分がある場合、オーダを単位別に完了としてレポートする必要があります。オーダの完了レポート (tisfc0520m000) セッションで数量を完了としてレポートすることで、オーダ配分が更新されます。

見積資材配分

特定単位のある品目で、同じ単位の資材を要求します。複数の単位が 1 つの製造オーダに結合されている場合、複数の単位の資材が要求されます。単位ごとに別々に見積資材のセットが要求されます。別々のセットの唯一の相違は単位番号です。

見積資材 (ticst0101m000) セッションで、見積資材を単位別に検索できます。見積資材ラインは、関連する品目の合計見積数量を表します。

見積資材の単位は見積資材内訳 (ticst0508m000) セッションに保管され、見積資材 (ticst0101m000) セッションの適切なメニューで [見積資材内訳] をクリックして開始できます。

完成状態ヘッダの単位

シリアル番号付品目の製造オーダーを作成するときに、完成状態構造を生成できます。完成状態構造は、完成状態ヘッダおよび完成状態構成要素で構成されます。完成状態ヘッダは、製造オーダー内で一意の最終製品を表します。このヘッダは、製造オーダー番号およびマスクに基づいて生成されるシリアル番号で識別されます。

完成状態構造が生成されると、オーダー配分に基づいて単位番号が割り当てられます。

単位番号はデフォルトですが、変更することができます。単位情報の変更は、オーダー配分に反映されます。オーダー配分の一部ではない単位番号が完成状態ヘッダに割り当てられると、オーダー配分が更新されます。単位に新しいラインが作成されます。

完成状態構成要素の単位

見積資材の場合と同様に、完成状態構成要素に単位が割り当てられます。単位は変更することができます。完成状態構成要素の変更は、見積資材には反映されません。

有効化構成と PCS プロジェクト

カスタマイズ品目は PCS プロジェクトの一部です。有効化構成はカスタマイズ品目にも使用できます。そのため、カスタマイズ品目のライン、工順、および工順作業の例外を作成できます。カスタマイズした完成品の単位も定義できます。

プロジェクト構造の生成

オーダー方針が「受注」である標準品目を販売オーダーラインに入力するときに、品目のプロジェクト構造を生成できます。標準品目を入力する代わりに、有効化コードを販売オーダーラインに入力することもできます。

プロジェクトパートへの単位のリンク

販売オーダーラインで単位を選択してプロジェクト構造を生成するときに、関連するプロジェクトパートに単位がリンクされます。

例

コンベヤのオーダー方針が「受注」に変更されます。単位 9584 の販売オーダーラインが入力されます。

この販売オーダーラインにプロジェクト構造が生成されます。つまり、品目がカスタマイズされます。この品目はプロジェクト 123001032 の一部です。

コンベヤに関して、単位情報を含むプロジェクトパートが自動的に生成され、プロジェクトパート (tipcs2111m000) セッションで表示することができます。

例外のコピー

標準品目をカスタマイズ品目にコピーするときに、関連する例外もコピーされます。次のエンティティに定義されている例外がコピーされます。

- 部品表
- 工順
- 工順作業
- 品目 - 購買取引先
- ソーシング戦略

品目設定のコピー

品目設定は、一般品目データに定義されて有効化構成に関連付けられますが、プロジェクト構造の生成時に標準品目からカスタマイズ品目にコピーされます。

有効化構成見積原価

プロジェクト構造の生成時に、マニュアルまたは自動で、単位をプロジェクトパートに割り当てることができます。プロジェクトの見積原価は、プロジェクトパートに定義されている単位に関して計算されます。

単位と PCF

PCF では、オーダーシステムが「SIC」、「計画」、または「マニュアル」である一般品目に有効化コードを定義できます。オーダーシステムが「FAS」である一般品目は、組立計画および組立管理によって処理されます。

PCF には例外を定義できません。そのため、例外を使用して一般部品表または工順を構成することはできません。PCF では、一般品目の構成で制約が使用されます。

ただし、企業計画では単位情報をより下位レベルの構成要素に展開します。これらの下位レベルの構成要素に例外を定義できます。たとえば、製造品目が一般品目の一部である場合、例外を使用して製造品目を構成できます。

販売オーダーラインで一般品目のプロジェクト構造が生成されると、LN で一般品目のカスタマイズ品目が作成されます。販売オーダーラインで、カスタマイズ品目は一般品目に置き換わります。この最上位レベルのカスタマイズ品目には、プロジェクトパートが生成されます。販売オーダーラインに入力した単位は、LN によってプロジェクトパートにリンクされます。プロジェクト構造の生成後に、PCS 機能が適用されます。これは前出のセクションで説明しています。

一般品目の構造では、標準品目のオーダー方針が「受注」であることがよくあります。プロジェクト構造が生成されると、これらの品目もカスタマイズされます。ただし、これらの品目に関連する例外 (部品表および工順にリンクされている例外など) はカスタマイズ品目にコピーされません。

設計データ管理 (EDM) の単位

有効化構成は、設計データ管理でもサポートされています。最初に、設計品目および設計部品表が EDM で定義されます。承認後に、設計品目は一般品目データの品目にコピーされ、設計部品表は製造部品表にコピーされます。

品目の発生を定義することは、一般的には設計タスクであり、有効化コードが役立ちます。単位を設計品目に割り当てて、例外を設計部品表ラインにリンクすることができます。単位を設計品

目にリンクして、一般品目データの品目に設計品目をコピーする場合には、品目もコピーされます。設計部品表が製造部品表にコピー (ファイナライズ) される場合には、例外もコピーされます。

例

新しいコンベヤが EDM で設計されています。新しいコンベヤの名前は conveyor-NE (new edition) です。品目 - 有効化コードシリーズ (tcuef0101m000) セッションで、この品目に有効化コードシリーズを定義します。品目 - 有効化コードシリーズ (tcuef0101m000) セッションで [設計品目] チェックボックスをオンにします。これは、設計品目が関係しているからです。

シリーズに単位を生成します。

設計部品表に例外を定義できます。

設計品目を品目一般データの品目にコピーすると、コピー先の品目に単位を再度リンクするかどうかが確認するメッセージが表示されます。

[Yes] をクリックした場合は、品目 - 有効化コードシリーズの再リンク (tcuef0201m000) セッションにデータを入力します。

有効化コード (tcuef0502m000) セッションに結果が表示されます。ここで、単位は非設計品目である conveyor-NE に関連付けられています。

部品表をファイナライズした後、例外もコピーされます。これらの例外は、引き続き再リンクされた単位を参照します。

一般品目データの品目に単位をコピーして再リンクした後、単位は設計品目にリンクされなくなります。ただし、以降の改訂での設計処理では、引き続き有効化コードを使用できます。設計部品表の例外では、一般品目データの品目に再リンクされた単位を参照できます。

また、設計品目に新しく単位を作成して、前に説明しているように、これらの単位を再リンクできます。

APL および ASC の単位

組立計画 および組立管理 で、オーダシステムが FAS である一般品目を管理します。これらの一般品目は PCF では使用できません。

APL では、次の項目に例外を定義できます。

1. 作業割当
2. 一般部品表 (PCF の一般部品表とは別の部品表)
3. 平準化された組立部品および作業

APL の製品バリエーションに有効化コードを入力できます。このバリエーションは、PCF で使用されるものとは異なります。販売オーダラインで製品バリエーションを作成すると、販売オーダから製品バリエーションの単位が取得されます。

設計データおよび計画データに基づいて、APL では ASC が管理する組立オーダを生成します。組立オーダには製品バリエーションへのリンクがあります。関連する有効化コードが組立オーダに表示されます。

LN では、組立オーダに必要な構成要素 (組立部品) に単位情報を通知することはありません。組立部品は必ず単位 0 で引き当てられ、出庫されます。組立環境では、有効化コードは組立オーダの

内容変更によりのみ使用されます。下位レベルの構成要素は、単位情報が保管されていない標準品目です。

有効化構成に基づいた取引先の選択

有効化構成を使用すると、品目に標準の業務手続を適合できるほか、特定の顧客の要件を発生元とする例外をモデル化することもできます。有効化構成の概念は、顧客がオーダーした製品の特徴について独自の要件を持っている場合に対応するものです。要件を有効化コードにリンクしたり、その逆方向にリンクしたりできます。また、例外を定義して、その例外の影響を受ける業務側面にリンクできます。この方法によって、標準の製品構成とのわずかな違いをモデル化できます。

例外

例外を定義するには、まず共通情報の有効化構成モジュールに含まれている品目に有効化構成構造を設定する必要があります。次を参照してください。有効化構成を設定するには。

例外は、次の業務側面に定義できます。

- 部品表ライン
対応する例外を定義するには、部品表 (tibom1110m000) セッションで [例外] をクリックします。
- 工順
工順の例外を定義するには、品目 - 工順 (tirou1101m000) セッションの適切なメニューにある [例外] をクリックします。
- 作業手順
有効化構成の作業手順を定義するには、工順作業 (tirou1102m000) セッションの適切なメニューにある [例外] をクリックします。
- ソーシング方法
工順の例外を定義するには、ソーシング戦略 (cprpd7110m000) セッションで [例外] をクリックします。
- 品目 - 購買取引先
有効化構成の購買取引先を定義するには、品目 - 購買取引先 (tdipu0110m000) セッションで [例外] をクリックします。

注意

部品表ライン、工順、作業手順、およびソーシング方法の例外を定義する方法の詳細は、該当するセッションのオンラインヘルプを参照してください。このトピックでは、有効化構成に基づく特定の品目 - 購買取引先の組合せに関する選択項目についてのみ説明しています。

品目 - 購買取引先

品目 - 購買取引先 (tdipu0110m000) セッションでは、有効化構成に関連する次のチェックボックスを利用できます。

- [標準構成]
- [例外あり]

両方のチェックボックスは、次の操作に使用します。

- 有効な取引先を取得し、オーダー計画での承認済取引先の選択処理時にこれらの取引先を企業計画に返します。この処理中に、企業計画により、販売オーダーライン (tdsls4101m000) セッションまたは販売見積ライン (tdsls1501m000) セッションから購買管理に有効化コードが通知されます。次に、購買管理でこれらのチェックボックスが参照され、品目に有効な購買取引先が決定されて、これらの取引先が企業計画に返されます。
- 有効化コードをリンクする購買オーダーラインをマニュアルで挿入するときに、品目 - 購買取引先の組合せの有効性をチェックできます。

[標準構成] チェックボックスがオンの場合、品目 - 購買取引先の組合せが無効であることを定義する例外が関連付けられていなければ、この組合せは有効です。このチェックボックスがオンの場合、購買オーダーに有効化コードがリンクされていなければ、その購買取引先は有効とみなされます。

[標準構成] チェックボックスがオフの場合、品目 - 購買取引先の組合せが購買オーダーの有効化コードに有効であることを定義する例外が関連付けられていなければ、企業計画でこの組合せが無効とみなされます。

[例外あり] チェックボックスがオンの場合、品目 - 購買取引先の組合せには、標準構成設定を無効にする例外が関連付けられています。

注意

- 標準構成は、品目 - 購買取引先の組合せが有効かを決めますが、例外によって無効にできます。
- 例外を使用して、品目 - 購買取引先の組合せが特定の有効化コードに有効なのか、要件に有効なのかを指定できます。

企業計画で有効な取引先が取得されると、計画購買オーダーが実際購買オーダーに変換され、有効化コードが購買オーダーライン (tdpur4101m000) セッションの [有効化コード] フィールドに転送されます。

注意

- 購買オーダーがマニュアルで作成されるか、企業計画によって自動的に生成されると、購買取引先が購買オーダーラインの有効化コードに有効かどうかチェックされます。
- (例外に基づいて) 有効な購買取引先が選択された場合は、購買取引先が構成要素を購入する必要のある製造元を定義することもできます。次を参照してください。複数製造元品目の設定と使用。

例 1

品目 RADAR に販売オーダーラインを作成し、有効化コード 232 を割り当てます。販売先取引先は、品目に次の仕様を指定しています。

- 品目は LIGHT モデルであること
- 品目は米国規制を満たしていること
- X-DEVICE と呼ばれる特定の部品は購買取引先の AE から購入すること

この場合、要件 - 有効化コード (tcuef0107m000) セッションまたは有効化コード (tcuef0102m000) セッションで次の要件を有効化コード 232 にリンクする必要があります。

- USA - 米国規制に準拠
- LIGHT - 軽量モデル 4
- XDEVICE - AE から購入する X-Device

要件の例外をモデル化できます。これは通常、マスタデータの設定時に行います。これらの例外を使用すれば、部品表ライン、工順、作業手順、外注方法、または品目 - 購買取引先の組合せの有効性を定義できます。

たとえば、部品表と工順に要件 USA および LIGHT の有効な例外が含まれるとします。この結果、RADAR とその部品に対して生成された購買オーダーと製造オーダーは、USA 市場の LIGHT モデルに合わせて調整されます。

AE を有効な唯一の購買取引先として、品目部品の X-DEVICE に定義するには、次のステップを実行します。

1. 品目 - 購買取引先の組合せである XDEVICE と AE に関して、品目 - 購買取引先 (tdipu0110m000) セッションの [標準構成] チェックボックスをオフにします。
2. 品目 - 購買取引先 (tdipu0110m000) セッションの [例外] をクリックして、この品目 - 購買取引先の組合せに例外を定義します。例外 (tcuef0105m000) セッションで XDEVICE の要件に関する [有効] チェックボックスをオンにして、有効な例外として定義します。これにより、この品目は AE から購入できますが、他の購買取引先も有効なままにすることができます。
3. 品目 - 購買取引先 (tdipu0110m000) セッションの [例外] をクリックして、この品目に他のすべての購買取引先の例外を定義します。例外 (tcuef0105m000) セッションで XDEVICE の要件に関する [有効] チェックボックスをオフにして、無効な例外として定義します。これにより、この品目は AE 以外の購買取引先から購入できなくなります。

例 2

同じ例で、品目 RADAR をドイツ市場でのみ販売する場合には、次のステップを実行します。

1. GER (ドイツ市場) という要件を要件 (tcuef0106m000) セッションに挿入します。
2. 要件 - 有効化コード (tcuef0107m000) セッションまたは有効化コード (tcuef0102m000) セッションで、この要件を有効化コード 232 にリンクします。
3. 品目が RADAR で、購買取引先がドイツの購買取引先である、すべての品目 - 購買取引先の組合せに関して品目 - 購買取引先 (tdipu0110m000) セッションの [標準構成] チェックボックスをオフにして、[例外] をクリックします。
4. GER 要件を選択し、例外 (tcuef0105m000) セッションの [有効] チェックボックスをオンにします。

この結果、企業計画の承認済取引先の選択処理では、品目 RADAR に関してドイツの購買取引先のみが企業計画で取得されます。

索引

コンセプト
有効化構成, 7
マスタデータ
有効化構成, 15
例外, 43
有効化構成, 43
 コンセプト, 7
 マスタデータ, 15
 企業計画単位, 27
 購買単位, 31
 製造単位, 37
 倉庫管理単位, 33
 単位販売, 23
 標準原価単位の計算, 21
有効化コード, 43
標準原価単位の計算
 有効化構成, 21
単位販売
 有効化構成, 23
企業計画単位
 有効化構成, 27
購買単位
 有効化構成, 31
倉庫管理単位
 有効化構成, 33
製造単位
 有効化構成, 37
